

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人 花咲き村

1. プロジェクト名

「市民参加で不耕作畑を活用する」 ～大豆を育てて味噌づくり

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

過疎化が進む中で、活用されなくなっている森林、農地が増えてくる。東京西多摩地域でも例外ではありません。社会変化の中で、林業や農業が停滞、とりわけ、小規模の所有者にあってはお年寄りができなくなると必然的に放置林、放置畑、放置畑になります。しかし、これらの森林や畑は豊かな里地環境を作りだしてきました。放置されてしまえば、里地はその意味を失ってしまうが、都市住民の参加で、耕作放棄された畑を新しい価値観で、ボランティアな参加で維持、保全する可能性を追求できれば、社会にとっても意義があり、ボランティアとして参加する人たちも利益があります。楽しいという方法で、活かしていく道を作ることです。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

今回の事業は、最近、耕作されなくなった2カ所ほど畑を活用する企画です。とりあず、畑をいかすということ、誰でも参加できるということ、活用することによって参加者にも得られるものがあり、その過程も楽しくやれるものということで、大豆を蒔いて、育て、収穫し、収穫した大豆で、味噌づくりを楽しむという内容としました。また、作業の過程で、脱穀には、足踏み脱穀機、くすり棒での棒打ち、唐箕を使うなどして、昔ながらの方法をお年寄りに伝授していただき、このような「昔の農具を活かす」という意味も大きいと考えています。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

放置された畑の活用を、参加者が味噌づくりという実用的な体験を通して、理解してもらうというのがネライでした。「大豆」というものが、味噌だけでなく、豆腐や納豆などの加工品につながるということ、また、大豆は比較的、簡単に作れる作物というものに参加しやすいものとなったようです。また、麴も古米で、自前で作ることも好評でした。今後は、耕作放棄されている畑の活用にも、同様な取り組みが可能となります。具体的には、大豆は6月から11月までの期間であり、その裏作として小麦（11月から5月まで）を作って、うどんやパンづくりという加工品につなげていけば、通年で畑を活用することになります。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

食の安全が叫ばれている中で、自分たちで作物を育て、収穫し、加工して、食べるという一連の活動はこれからますます関心の高まることと思われれます。あとは、耕作放棄している畑を、本格的な農業としての活用ではなく、関心のある都市住民にもう少し気楽に活用するスタイルとして実績を積んでいけば、畑の所有者の理解も深まっていくのではないかと期待を持たせる取り組みでした。また、味噌、豆腐、麴などを自前で作るという体験も好評でした。大豆の収穫や脱穀などで「くすり棒」や「足踏み脱穀機」、「唐箕」などの昔の農具を使って体験するというのも参加者には好評でした。ちなみに、大豆は選別した結果、40kgの収穫でした。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり

